

ほたる放流会 エコバッグ作りで環境もアピール

洞 爺湖生年会議所（J・C・戸秀徳理事長）と教育委員会が主催する「ほたる放流会」が6月22日行われ、親子ら50人が、ヘイケボタルの幼虫約150匹を放流しました。自然環境の大切さをアピールしようとJ・Cが、4年前から取り組んでいるイベント。当日は、環境のビデオを鑑賞した後、エコバッグ作りを行いました。つづいて、池に向き、体調約1cmに育った幼虫をそっと放流しました。



ほたるの幼虫を放流する児童ら

自然満喫 中島を歩く

自 然に親しむ集い（教育委員会主催）の今年度第1弾「中島散策」が、6月21日行われました。コースは昨年と同様で、巨木跡を過ぎて、そのまま岸辺を歩く約10kmの道のり。当日は、15人が参加して、洞爺ガイドセンターの飯田さんと西原さんが資料を駆使して案内。途中鹿の生態や中島の植物の説明を聞きながら、晴天の中島を約4時間かけて歩き、自然を堪能しました。



ガイドから説明を受ける参加者

○まちのわだい○

サミット期間中 英国青年メッセージ展覧会開く

6 月16日～7月9日まで、洞爺国際交流協会は、かつて洞爺地区で活動した英国青年ボランティアのメッセージなどを洞爺湖総合センターロビーで展示し、サミットを機会に、今までの交流を紹介しました。同協会が「サミット地にメッセージを」と手紙を送ったところたくさん寄せられ、展示を企画。そのほか絵手紙サークルレイクの会（高橋伸江さん指導）のみなさんの絵手紙や同会を通じて全国の仲間からのメッセージ



懐かしい思いをつづった英国青年メッセージ展

も来場者の目をひいていました。

虹中に恒例の雑巾寄贈 ななかまどの会

6 月23日、町内のボランティア団体「ななかまどの会」（坂井千枝会長）のメンバーが虹田中学校を訪問し、恒例になっている会員手づくりによる雑巾を寄贈しました。当日は、酒井会長と越後さんが、同中を訪れ、雑巾1000枚を、大村浩喜教頭先生に手渡しました。大村先生は「学校では、いろんな利用があり、有効に活用させていただきます」とお礼を述べました。来年は、洞爺中への寄贈を予定しているそうです。



雑巾を手渡すななかまどの会のメンバー

定しているそうです。